



相ノ木っ子だより



令和3年度
10月号
上市町立
相ノ木小学校



素直な心の初段になる



「〇団の～、三冠を祈って～」

運動会の翌日、登校してきた1年生が児童玄関で応援合戦の一部を口ずさんでいました。これまで一生懸命練習してきたからでしょうか、それとも自団の応援合戦の出来に満足したからでしょうか、思わずついて出る口癖のように繰り返す姿が見られました。もう練習する必要はないのですが、前日の余韻に浸っているのか、もっともっと運動会をやりたい気持ちが溢れているのか、まだ興奮冷めやらぬ様子でした。とは言え、火曜日開催の運動会で、どの子もやや疲れた様子が伺え、その週の残りの日はさぞ長く感じられたことでしょう。それでも、2週間延期した大きな行事をやり終えた満足感、団のみんなで協力できた喜び、準備や練習を自分たち主導で行えた自信、精一杯力を出し尽くした達成感等々、子供たちは多くのものを得て、その心地よさを味わっているように感じました。

運動会当日は、平日にも関わらずたくさんの保護者、家族の方が参観され、応援してくださいました。おかげで子供たちは楽しく、伸び伸びと力を発揮し、先生方は子供たちを温かく見守りながら進めていました。本当に感謝しています。実際、競技や運営における子供たちの様子を振り返ってみても、子供たちの明るさや素直さが前面に出ていた運動会だったように思います。おそらく初めてであろう全団1位となった上学年綱引きの白熱した勝負。競技中に各団学年入り混じって繰り広げた団席前での華やかな応援。「〇団、追いつきそうです。このまま追い抜くのでしょうか～」と前のめりになって高学年リレーを盛り上げた広報委員4年生の絶叫系実況放送。また、本部のわたしたちや周辺の保護者の方々からも楽し気な声援や歓声が飛び交っていました。そこには、何だか穏やかな空気が流れていたように感じましたし、これが相ノ木の運動会なんだと実感しました。

それまでの練習や準備でも、コロナウイルス感染予防に努めながら、子供たちの素直な一生懸命さが見られました。低・中・高学年ともスムーズなバトンパスを目指して練習を繰り返していたリレー。6年生が中心となって形も気持ちも徐々にまとまっていた各団の応援練習。先生方の指示の下、上学年が率先して取り組んだ係の準備やテント張り。どの場面でも、主体的で、素敵な相ノ木っ子たちの姿がありました。話は変わりますが、先日学校訪問研修会があり、教育事務所の方々に子供たちの授業の様子を見てもらいました。参観後の感想として、子供たちが自分の思いを素直に発言していたことをとても誉めていられました。自分の思いを率直に語ることはなかなか難しいことです。考えようとする意欲、自分の思いを形成する考える力が付いてきているからこそ、自信をもって発言できます。でも何より、その土台となる素直な心があってこそ、活発な話し合いがなされているのだと思います。そういった素直さが、相ノ木小学校のよさ、相ノ木っ子たちのすばらしさであることを再確認しました。

実業家・発明家である松下幸之助さんは、次の言葉を残しています。

素直な心の初段になる。

「素直」は、松下氏が大切にしてきた心であり、一生涯の目標だったそうです。そして、「素直な心になりたいということ強く願って毎日を過ごせば、三十年で素直な心の初段になれる。素直な心の涵養、向上ということは、あらゆる経営者、さらにはすべての人が心がけていくべき、きわめて大切なものである。それなくして、経営の真の成功も、人生の真の幸せもあり得ないといっている。やはりお互いに初段ぐらいにはなることを目指したい」と言っています。「経営の神様」である松下氏が、素直さを地道に追求していたことは少々意外ではあります。しかし、それだけ人間にとって素直な心というものが大事なものなんだと改めて思うことができました。明るく、素直で、穏やかな心の醸成。これまで大切にしてきた相ノ木っ子の育ちをこれからも日々積み重ねていきたいと強く思います。



相ノ木っ子のおもてなしの心



正面玄関、図書室、なかよし玄関、図工室等、学校のいろんな所に、今たくさんの手作りの焼き物が置かれています。焼き物は、色も模様も様々で、いろいろな種類の草花が挿してあります。それらは、6年生が図画工作科で作成した焼き物を自分で選んだ場所に置き、毎日のように家から草花を持ってきて飾り付けているものなんです。6年生の取り組みからは、ただ学習成果を展示するだけでなく、学校全体を見据えたおもてなしの心が伺えます。そのことが、とてもうれしいのです。

相ノ木っ子のおもてなしの心は、他にもたくさんあります。美化委員のみんなが毎日きちんとお世話し、秋になってもずっとりっぱな花を咲かせている「みんなの花だん」。先生方やお客さんに会ったら、どこでもどの子も挨拶してくれる「こんにちは」。学年の友達と協力しながら、学校をきれいにしている清掃活動。それらには、学校に来られる人に少しでも気持ちよくなってもらおう、学校のためのために自分のできることをしようという思いが感じられます。わたしは、先生方や職員の姿が子供たちの心に大きな影響を与えていると考えます。子供たちに声掛けしながら率先して花壇の世話や校舎の清掃を行っている先生方。草刈りや壁・窓の清掃等学校をとってもきれいにしている職員の澤田さんや種田さん。その背中を見て、子供たちはおもてなしの行動や活動が当たり前のように行えるようになってきたのだと思います。

自分を生きること。

他人を活かすこと。

それが「生活」だ。

これは、コンサルタントの吉武大輔さんの言葉です。また、実業家の斎藤一人さんは、次のように言っています。

死ぬと、あの世で2つ質問される。

一つは「人生を楽しみましたか？」

もう一つは「人に親切にしましたか？」

この2つの質問は、実は同じことを言っている。

他人に喜ばれることこそ、一番楽しいことである。

相手を楽しませるだけの自己犠牲、自分が楽しいだけの自己満足、どちらか一方ではいけないのですね。人のために行動することに自分の幸せを感じる、自分のために行っていることが人にも活かされる、その両方があるこそ、真の自分の生活を送ることになるのでしょう。ですから、相ノ木っ子がもてなしの心で学校をよりよくしようともっともっと励み、自分は幸せだという満ち足りた思いをどんどん感じることで、自分らしさを実感しながら、人としてより成長していってくれると思います。

相ノ木っ子のみんな、おもてなしの心っていいよね。相手も、自分も幸せな気持ちになるものね。

行事予定（10月中旬～11月中旬）

10月14日（木）	4年校外学習（四季防災館） 健康運動能力向上支援事業 ＜器械体操＞（1・2年） 居住地校交流（つばめ級・2年）	10月26日（火）	就学時健診 下校 1～4, 6年 12:20 5年 15:20
15日（金）	健康運動能力向上支援事業 ＜走＞（1・2年）	29日（金）	健康運動能力向上支援事業 ＜投＞（1・2年）
18日（月）	研修会のため下校 13:20	11月 3日（水）	文化の日
22日（金）	学校保健委員会 学習参観 親子下校 14:30	9日（火）	研究会のため下校 13:30

